

## ごあいさつ

『にいくら』27号をお届けいたします。

本号には寄稿論文一篇が掲載されています。

小川功先生(本学観光デザイン学科元教授)による「浅間山麓に“陸舟”で押出した花蹊と門下生の学び舎—軽井沢『靈秀山荘』新築から戦後の浅間寮・演習林まで—」です。

大正3(1914)年8月8日の『花蹊日記』に次のように記されています。「李子よりすゝめられて軽井沢へ避暑のつもりして準備する。」この記述に照らすと、花蹊の軽井沢で避暑の始点は、大正3～4年頃と考えられます。このたびの小川論文は、学祖花蹊の軽井沢での避暑体験に着眼され、花蹊と軽井沢との浅からぬ縁について考究されたものです。ご多用のなか玉稿を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

令和3年度の花蹊記念資料館の活動、ならびに学芸員課程の記録は、例年と同じく本誌に記載されています。ご高覧いただければ幸いです。

最後になりましたが、本誌完成にご尽力いただきました関係各位にあらためて御礼申し上げますとともに、花蹊記念資料館への変わらぬご支援、ご協力に対しまして深謝申し上げます。

令和4年3月吉日

跡見学園女子大学 花蹊記念資料館

跡見学園女子大学 学芸員課程